

NPO 法人 建築設備コミッションング協会 (BSCA)
2015 年 公開シンポジウム

CxF(コミッションング事業者)登録制度の創設 とCxビジネスの展開 in 中部

最近、省エネルギー化、CO₂ 排出削減の実現において、コミッションング(Cx)が有効なプロセスであると認識されつつあり、当協会にも、コミッションングの導入を検討しているが適切な受託事業者はどうしたら見つかるかという、建物オーナーからの相談がくるようになりました。しかし、建物オーナーがコミッションング業務を受託できる適切な組織(コミッションング事業者・CxF:FはFirmの意味)を見つけることは、情報が乏しく難しいのが実情です。そこで当協会では、2015年4月に「CxF登録制度」を創設し、この事業者情報をホームページ等で広く社会に紹介するしくみをスタートさせます。

今回のシンポジウムは、これを機に、当協会の関係者が関与して選定した CxF や、当協会自身が先導的な CxF となって関わっている Cx プロジェクトを題材に、建物オーナーと CxF という両方の立場から、その目的、意義、課題などについて発表してもらい、コミッションング業務受託事業者(CxF)登録制度の発進の場にしたいと考えています。是非、奮ってご参加ください。

なお、シンポジウムの前には、名古屋大学共同研究館の見学も企画しておりますので、ご興味のある方は、希望者先着順となりますがシンポジウムと合わせてご参加ください。

【日 時】平成 27 年 4 月 2 日(木)

シンポジウム 13:30~17:20

見学会 11:00~12:30 希望者のみ(先着順 15 名)

【場 所】名古屋大学 環境総合館レクチャーホール

(見学会に参加される方もこちらにご参集ください)

【定 員】60 名

【参 加 費】BSCA 会員 2,000 円(BSCA 賛助会員は 2 名まで会員価格)、非会員 3,000 円

(参加費は、当日受付で現金でお支払い下さい。引き換えに領収書をお渡し致します。)

【申込方法】BSCA ホームページ(<http://www.bsca.or.jp>)の申込みサイト

【申込締切】平成 27 年 3 月 26 日(木) 定員に達すれば締切期日の前に締め切ります。

【問合せ先】NPO 法人建築設備コミッションング協会

事務局 tel: 080-8512-2681, e-mail: bsca.mail@bsca.or.jp

【主 催】NPO 法人 建築設備コミッションング協会

【協 賛】 (公社)空気調和・衛生工学会 (一社)日本建築学会
(予定) (一社)建築設備技術者協会 (一社)建築設備総合協会
(一社)一般社団法人日本ビルディング協会連合会
(一社)ESCO 推進協議会 (一社)関西 ESCO 協会
(一財)ヒートポンプ・蓄熱センター

なお、本シンポジウムは、「建築CPD制度認定対象プログラム」、「空気調和・衛生工学会CPDシステム」の対象プログラムとして申請する予定です。

【プログラム】

時間	見学会・講演内容 / 講演者
11:00 ～12:30	名古屋大学研究所共同館設備ほか見学会 奥宮正哉(名古屋大学) 熱源設備・制御システムをコミショニング(Cx)の視点も加えて説明しながら案内します。あわせて、名古屋大学の話題の施設を見学します。
13:30 ～13:50	シンポジウム主旨説明と CxF 登録制度の概要 主旨説明 吉田治典(BSCA 理事長 京都大学名誉教授) CxF 登録制度の概要 松下直幹(BSCA・CxF 登録制度立上 WG 主査 (株)アレフネット部長) 本シンポジウムの開催趣旨を述べ、2015年4月からスタートするCxF登録制度の創設背景、審議の経過、制度の概要について解説します。
13:50 ～14:30	事例 1: 名古屋大学共同研究館の Cx プロジェクト オーナーとして 奥宮正哉(名古屋大学) CxFとして 中原信生(担当 CA・BSCA 名誉理事長) 産学連携で建築・電気・機械の各分野が横断的に、企画から運用まで全ての段階でビルコミショニング体制を確立し実践した取組であり、エネルギーの削減に大きく貢献するとともに、ビルコミショニングのモデルとして、建築業界を始めとする幅広い業界への波及効果が大きい点を高く評価されています。
14:30 ～15:10	事例 2: 長崎県庁新庁舎建築工事の Cx プロジェクト オーナーとして 高屋 誠(長崎県総務部県庁舎建設課 参事) CxFとして 赤司泰義(BSCA 副理事長 東京大学教授) 一般的な官公庁ビルと比較して、運用段階のエネルギー消費量を 40%削減することを目標に、他県に先駆けた取り組みとして新庁舎の企画・設計フェーズにコミショニングを適用したプロジェクトです。平成 26 年 2 月に実施設計が完了し、現在、施工フェーズが始まったところですが、竣工後の「機能性能試験」の実施に向けて、全 39 項目に亘る性能試験項目の測定・評価方法をまとめた仕様書も先行して作成しました。
15:10 ～15:20	休憩
15:20 ～16:00	事例 3: 京都駅ビル熱源・空調設備改修工事の Cx プロジェクト オーナーとして 高浦敬之(京都駅ビル開発(株) 常務取締役) CxFとして 吉田治典(前出) 環境モデル都市・京都を代表するビルを目指して、約 60%という大幅な省 CO ₂ を図る改修プロジェクトです。コミショニングは企画・設計フェーズから導入され、現在、施工フェーズに入りました。竣工後の一年間を機能性能試験の期間に充てて契約するなど、従来の枠組みとは異なる新しい対応もしています。こうした、本格的に全フェーズに Cx を適用し 100 年建築を実現する新奇性が評価され、国土交通省の平成 26 年度第 2 回省 CO ₂ 先導事業として採択されています。
16:00 ～16:40	事例 4: 虎ノ門ヒルズ森タワーの Cx プロジェクト オーナーとして 大森一郎(BSCA 会員・森ビル) CxFとして 大串辰雄((株)日本設計 環境・設備設計群 副群長) これまで大規模なテナントオフィスビルに潜顕分離の具現化したものはなく、本建物のシステム導入だけでも社会発信のインパクトが大きいプロジェクトです。さらに中温冷温水を採用した繊細かつ複雑さを含んだシステムであるため、専門家による運用段階の Cx を実施することにしました。また、国土交通省の省 CO ₂ 先導事業に採択され技術導入の成果報告にも Cxを適用する予定です。
16:40 ～16:50	休憩(準備)
16:50 ～17:20	パネルディスカッション コーディネーター 山羽 基(中部大学・工学部建築学科・教授) 講演者とともに、CxF の発展のあり方、課題について議論します。

【アクセス】



地下鉄名城線「名古屋大学」駅下車 2出入口 から徒歩5分